

2023 年度 G T セミナー 第 57 回保育環境セミナー 子ども同士の関わり・異年齢編④

第336号 2023年8月7日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社ガガヤ 奥山卓矢

子ども同士の関わり・異年齢編②

2023年7月10日～12日に「第57回保育環境セミナー」
(子ども同士の関わり・異年齢編)を開催しました。

オフライン参加は約150名、オンライン参加は60施設を超えるお
申し込みを頂きました。今回は、藤森代表から「子ども同士の関わ
り・異年齢」について考え方をお示し頂きました。

本誌含め、4回に分けてお送りする最終回です。

【セミナー開催趣旨】

「見守る保育 藤森メソッド®」の提唱者 藤森平司先生は自身の実
践から今の保育形態を構築しました。その実践のポイントは「子ど
も同士」「異年齢」「子ども主体」「チーム保育」の4つです。

「見守る保育」という言葉はいろいろなところで一人歩きしてしま
い、勘違いされることがあります。

そこで提唱者である藤森先生の名前を使用することで、しっかりと
した理念とエビデンス、そして4つの重要ポイントを実践すること
で差別化を図りました。

また実践園は根底が同じであるため、様々な実践が生まれます。
その実践を互いに学び合うことができるのも、メソッド化した
もう一つの理由です。

GTは乳幼児施設同士が繋がることを目的とした組織です。

今後より繋がりが深くなることを願っています。

ギビングツリー代表 藤森平司(新宿せいが子ども園 園長)

The flyer details the seminar structure and content. It features the title '見守る保育 藤森メソッド 保育環境セミナー' and the presenter '見守る保育 藤森メソッド® 提唱者 藤森平司先生'. A key message states: '今、子どもに必要な保育の「考え方」と「態度」を学ぶ。' The program is a 3-day event with the following schedule:

- 1日目 園見学 +** 園見学 (10:00~12:00) and 園見学 (13:00~15:00)
- 2日目 講演・実践発表 +** 講演 (10:00~11:30) and 実践発表 (11:30~15:00)
- 3日目 園見学** (10:00~12:00) and 園見学 (13:00~15:00)

Additional information includes: '保育環境セミナーは各園3日間の日程です', 'オンライン参加も可能です', and '詳しくは裏面へ」.

第57回保育環境セミナー Q&A

保育環境研究所ギビングツリー代表 藤森平司氏（新宿せいが子ども園 園長）

前号に引き続き、オフラインでセミナーにご参加頂いた皆様から寄せられた質問について、ギビングツリー代表の藤森平司先生に考え方を示して頂きました。

Q12. 3歳児の子どもで手が出たり、テリトリーがあったりと援助が必要な子がいるが、その子どもが1人になれるような空間を作るが、お友達と関わりたいという姿もある。どのような環境を作っていけば良いのか。また保育士としての対応方法についてお聞きしたいです。

まず友達同士で関わりたいなら、たぶん発達障がいではないでしょうね。ただ特徴は、場所と物に執着する子が多いです。そういう場合は、どの場所が好きなのか、何をすることが好きなのかを見つけてあげることですね。それをいつでもやれる保証をしてあげることが必要です。うちは345が広いところなので、そういう子がいた時に、どこが好きかを見つけた時にベランダだった。パニックになると、ベランダへ行って一人で気持ちをおさめていたが、ウサギがいて手をかまれたので、今度は下の倉庫だった。倉庫へ行くと紙から何から何まで投げて困るので、一緒に見つけてあげた。その子が自分で落ち着ける場所、私がテントみたいなのを自宅から持ってきて、一人で入れるものを持ってきたが、1人で入れる場所を作った。この間、教育展に行ったときに音を遮断する囲いがあった。それがいいかもしれないと買おうかと話をしていた。連絡をしたら「見本を持っていきます！」となったが、向こうから突然、見本をもっていけないから展示室に来てくださいと言われてたが、園でやってみないと分からないですよ。1人でいる場所を作ってあげないといけないような気がします。それから音を遮断する場所。去年までその子はヘッドホンをして音を遮断していたが、そういうことも必要かもしれません。一般の子でもそうで、いつでも広い場所、騒がしい場所ではなく、静かな場所、狭い場所、少しうす暗い場所、私はこれをメリハリと言っているが、空間に色々つくってあげるのもいいと思います。押し入れの中とか、ベッドの下とか、潜れる場所を作るのもいいと思います。

Q13. 藤森先生の考えのオープン保育についてお聞きしたいです。

私が考えているわけではなくてミュンヘン市で始まった保育です。徹底して、自由遊び見直そうというところからはじまりました、ヨーロッパでは、自由遊びが子どもの世界から減ってきていると言われていています。アメリカでも数年前の2/3に位減っていると言われていています。サッカーとか、金管楽器のチームとかで時間を使ってしまう。それは全部大人が設定した遊びですね。自由遊びではありません。子ども同士の中で作っていく遊びが減ってきている。今、自由遊びについて調べているが、ブラウンという人がいます。テキサス州にあるテキサス大学の屋上で、ある兵士が乱射事件を起こした。テキサス州は、精神科医のブラウンに何でそういうことをしたか調べてくれと頼んだ。その頃、乱射事件を起こして死刑判決を受けた死刑囚が60人くらいいたが、その人たちの成育歴を調べたら2つ共通点があった。1つは日常的に虐待を受けていた。2つ目が自由遊びをしたことがなかった。この2つのうちどっちの影響が高いかをアメリカ全土6,000人の死刑囚全員を調べたら、自由遊びをしなかったからということが原因だった。日本で、自衛隊が銃を撃ったとかあったが、日常的に問題のあることではないが、全部大人が監視している中で過ごしている。自分たち同士で過ごしていないということで、その研究をブラウンが出したことで、世界中に自由遊びを保証する協会が出来ました。それにもかかわらず、年々子どもの世界から減ってきていると言われていています。減って

きているのに合わせて、無差別な殺人が増えて来ている。もう一度自由遊びを見直しましょうというのが、ドイツのオープン保育です。オープン保育は、子どもたちがどこへ行っても、誰と遊んでも何をしても園内は自由です。子どもはどこにいてもいい、1日中。それを提案したときに反対が起きました。そんなことをしたら子どもがどこにいるか把握できない。親が迎えに来て、どこにいるか分からないということが起きました。なかなか決着がつかなかった。ミュンヘン市は、では、原点に戻って子どもにとってどうなのか考えようとした結果、反対理由はほとんど、大人の都合だった。子どもはイキイキしている。居場所があるということで、思い切ってやり始めたそうです。ただし、コロナで一時的に中断しています。その後はコロナ後にどう戻っているか分からないが、徹底した自由遊びを取り戻そうという動きからはじまっています。最初お集まりを100人くらいでします。先生はどこで何をしているかを発表します。子どもたちはどの部屋で何をするかを決めることをしていました。ということがオープン保育で、私はそこまで考えはいいないが、ただし自由遊びの時間をもう一度取り戻そうということを考えています。それは、放任保育と違った自由遊びのある意図をどの程度出すかということを考えています。意図があまりあっては自由遊びではないですので、なかなか難しいが今回シンガポールへ行って考えてしまった。

【年齢別保育と異年齢保育】

Q14.異年齢での関わりが多い中で、0歳児と5歳児の関わりは、多く見られているのですが、3歳以上児（3・4・5歳児）での関わりとなると、力の差や体力の差から「一緒に〇〇をしたくない。」「混ぜてこないで。」など、保育士が間に入っている遊びでもそのような声が聞こえてきます。その際の保育士の声のかけ方や対応の仕方などをどうしていけたらいいのかを迷ってしまいます。私が間に入っている時は、双方の話を聞きお互いの気持ちを伝え合う場面を設けるようにしていますが、このやり方でもいいのだろうかと思うこともあります。

意図があれば意識して異年齢で触れさせます。子どもたちも何をしたいか分かります。普段の自由遊びと言ったら変だが、自由に遊んでいるときは何も異年齢で遊ぶ必要はなく、力の差、体力の差があるのなら、同じ力同士で遊べばいいですね。そうしたら逆に異年齢になる可能性が高いですね。5歳だからと言って必ず力があるとは限らないですからね。力の遊びをしたいなら、力のある人で遊べばいいですね。年長だって早産児も多い、昔で言う未熟児。年長だけで遊んでいる方が差が出ます。それは異年齢だろうが、同年齢だろうが同じですよ。異年齢の方が、力の差があるわけではないです。子どもたちは何をしたいかによって相手を選びますから、同じ力同士で遊びたければ同じ人を選びますよ。多くは同じ年齢の可能性は高いです。それは何の問題もないです。力だけではなく、知恵でもそう。オセロをしようとしたら、5歳と3歳と一緒に遊んだらつまらない。同じくらい同士じゃないとつまらない。それを無理やり「5と勝負しなさい」なんていう必要はない。だけれどその中で、審判は上の子に頼もうとか、駒回しは上から教えてもらおうとか、それは差があるから頼む。差がない遊びをしたいなら、同じ年齢で遊ぶことが多い。差があるから上に頼む、下も頼む。そう思うと混ぜてこないということは、差がない中で遊んでいたら、混ぜられない方が大事。混ぜると言ったら混ぜればいいし、助けてと言ったら助けたらいい。自分たちでやっているならなんてことはない。これは逆に年齢を意識し過ぎている。異年齢児保育と言っても、年齢を意識し過ぎていると思いますね。異年齢児保育は、年齢を意識しない保育なので、同じ年齢だろうがなるまいが、子どもが遊び自体が楽しければいいと思います。無理にくっつける必要もなく、先生も無理に入る必要はない。一番の力の差は、先生と子どもなので、いけないのは先生が加減をしてしまうこと。基本的になくなっているかもしれませんが、私は「先生、遊ぼう」と言われた時は、徹底的にやっつけてしまった方がいいと思っています。大人と遊んでも楽しくない、大人は負けてくれるから遊びたがる子もいるが、大人とやるともっと負けてしまうと言って、私は子ども同士の方がいいと思

っているので、本気出していいと思っています。子どもでも分かると思います。小学校に務めているときにクラスに入ろうとしたら、1年生の子だが、「鍵を閉めて反省するまで入ってはダメ」と締め出されたことがある。他の先生は面白がって見ていたが、私が「何か悪いことした？」と聞いたら、こういわれました。その前の時間、体育の時間で隣のクラスの先生が休んでいたため、合同で体育をした。合同でリレーの対決をしようとしたら、隣のクラスが一人人数が足りなかった。うちのクラスが勝っていたが、私が入ったら隣のクラスに入ったり、最後追い抜いて隣のクラスが勝ってしまって、子どもたちから「裏切り者！」と怒って、入ってくるなと言われ外に出された。ドアの向こうに集まりなさいと言ってこう言いました。隣のクラスに入った時に3つ考えた。1つは、自分のクラスが可愛いからわざと遅く箸って、自分のクラスを勝たせようと思った。2つ目は、喧嘩は嫌だから走るスピードを調整して、同時に入ろうと思った。3つ目は勝っても負けてもいいから一生懸命走ろうと思ったから3つ目を取ったと言ったらすぐに入れてくれた。ちゃんと説明したらわかるので加減するのは子どもをバカにすることなので誘われたら本気を出すべきだと思っている。そういう風に年長が入れば買っても仕方ない。自分たちだけでやりたいときもあるのでよばなければならない。先生が入れてという必要はない。これは他の年齢でもそうです。意図が面倒を見る、教えるというのであれば当然意図があるので年長と下の子をやらせるわけですが自分たちで遊んでいるなら相手をどう選んでもいいと思います。

Q15.1 日目の見学では0.1歳児別の活動に感じたのですが、発達別活動などされているのでしょうか？

1歳のように見えて下で食事をしている中で0歳児クラスの子が何人かいます。クラスは0歳クラス1歳クラスがあるが、活動は発達によってするのでまず授乳期の子たち、食べさせてもらう子たち、自分で食べれる子たちと分けて食べています。今の時期は自分で食べれる子たちが0の中で少しいるので少しそっちに入っている。見た感じが年齢別に見れるのが発達別で見ているのでみんな同じ発達に見えますと思います。あれを0だけで活動していたら、授乳している子も食べさせてもらっているこも一人で食べている子も同じ場所で食べているとしたらこっちの方が異年齢に見えますね。だけど逆ですね0歳児クラスで食べたらそうになってしまう。自分で食べられるようになったこと分けているので同じように見えますと思います。遊ぶ場所も、寝返り、伝い歩きをしている子たちの部屋、走り回り始めた子の部屋、クラスとしては0歳児クラスの子たちもいます。それが意味、異年齢児活動かもしれないが、うちで言えば発達で空間を分けている。ただし、担任はうちはクラスは0歳児クラスは最後までです。いる場所変わってくる。0の先生は3対1で巣から、3人くらいの子たちと移動してくる。食事も自分で食べれるようになったら床で1歳の横で一緒に食べるように発達の方で動いていくやり方をしています。

Q16.お手伝い保育について

うちは週1回、やってあげるやっもらう、教えてあげる関係も必要なのでお手伝い保育をしているが3歳と5歳とでは逆転してしまうかのせいがある。3歳の方が出来てしまうこともあるし、5歳が偉いということでもおかしい。2歳以下ならやってあげるやっもらう関係が出来るので、年長さんが週1回012歳にお手伝いに入ります。最初のうちは時間短いがだんだん1日中は言っています。お手伝い保育なので先生の代わりをする。お手伝いだからと言って究極の話だが、お手伝い保育が一番手伝うのは手伝わないことです。矛盾するようだが自分で服を着たい子を手伝わないことが最高のお手伝い保育です。多々したまま服を着替えさせるのは、ただまごとしてしているようなものです。お手伝いではないです、お手伝いは自分がやりたい気持ちに寄り添うことなので、見守る保育だからそれを年長さんは学びます。自分でやりたいこの場あいは、手伝わない。何が出来ないことに手を出すことを学ぶので卒園して、園に手伝いに来てくれると新人よりよっぽど見守る保育が出来ますね、手の出し方が上手です。ただ、定員が増

えて年長さんが012歳にお手伝いに行くひとがおおいのでおなじひにグループで分けてあるグループは0、あるグループは1、あるグループ2ですが、あるグループは職員室のお手伝い、あるグループは調理のお手伝い、あるグループはSTEM実験をしていますとか、地域の人とzoomをする。皆さんの中でも希望があればその時間帯は全国の園とZoomで話し合いをしたりします、面白いですね。平戸でやった時は通園に何を使ってきますか？うちは大体、自転車か歩き。平戸に聞いたら船で通うと言っていて子どもたちはびっくりしていた。宮材のことやった時は東京の子も日本語を話しているとびっくりしていた。東京の子は英語で話していると思っていたと話してみると面白い。シンガポールともやりました。通訳を入れてだが時差が1時間なので、どんな遊びをしているか、ゾーンがあるかをやっていた、そういうのもやれたらやってみたいと思います。お手伝い保育の時のあるグループの時にそういうことを少人数に分かれる時にそうしています。

Q17.年齢が上の子を模倣することが多いと講義でお聞きしたのですが、今担当している年中児は年少児の動きに釣られ、真似をすることで保育者の気を引こうとしています。その場合どのように対応すれば良いのか、チーム保育のなかで日々悩んでいるのですが、なにかアドバイス・対応策・アイデア等ありますでしょうか？

基本的には模倣は自分より上をします。しかし、下を真似するときはここに書いてあるように先生の気を飛行をする、顕著なのが赤ちゃん返りです。兄弟で下の子が生まれると赤ちゃんのように戻ってしまう。赤ちゃんの愛情を取られると思うから戻ってしまうのは気を引こうとする、気を引こうとする理由が分かるならその手に載らないことです。気を引くならちゃんと言いなさい、それなら一緒に遊ばすよという風にしないとだめですね。障害の子も同じで気を引こうと悪いことをしているなら、危険が内かだけを見る。大人を呼ぶとき必要とするときの呼び方をちゃんと教えないといけません。悪いことをしたり赤ちゃんの用に甘えることが関わってもらおうと思ったらそうではないです。汚い言葉の時もそうです。その手に載ってはダメです、無視するしかないです。ふっと違う感じで読んだら大げさに振り向いてあげる。キイを引いてあげるよと変えないとだめですね。も穂ではないですね。先生を呼ぶときにどうしたら関わってもらえるかです。突然、胸を触ってキャーキャー言ったら絶対だめですね、我慢して知らん顔するか払いのける。先生と言ってきたら大げさに聞いてあげる。変なことや悪いことをしたら、関わってほしいサインならちゃんとしたときに十分関わってあげることだと思います。

Q18.異年齢保育を行う中でIT化が進み、年長児が「ぶん殴る」「殺す」などの言葉を使う場面があるが、どのように対応していけば良いのか。

これは今言ったように知らん顔ですね、それから喃語と同じでちゃんとした言葉に言い換える。わんわんが来たねではなくて、犬が来たねと言ってあげることと同じですね。それ自体に大騒ぎせず知らん顔。相手が乗らなければ言わなくなります。気h的に言ってきたら知らん顔ですね、ちゃんとした言葉の時には大げさに反応する。IT化には関係ないがTVやゲームの影響は大きいですが、TVやゲームそう時間数よりも園にいる方が長いはずで、園の影響を受けるはずなので先生たちはちゃんとした言葉や関わりをしていくことをしていくしかないです。大騒ぎしないでちゃんとしたやり方をしていくしかないと思います。

Q19.幼児の保育室で子どもたちは自分の好きなことに没頭していたり、子ども同士で関わっています。だから子どもに手がかからないので全保育士が何かをしています。例えば、①個別に子どもと触れ合っているまたはあそんでいる ②書類をしている ③部屋の片づけをしている等です。 保育室全体を見ている保育士が居ないのが現状です。立って全体を見渡している保育士が居たほうがいいと思いますが、何かしないとあそんでいると思われると思ってい

るのか？何かしらせわしく動き回っています。庭では、それが出来ていて全体を見ている保育士がいます。

保育士が「立って全体を見守る」ことを保育士の仕事として認識しないと、なかなかチームとして保育室でそれが出来ないのではないかとありますが、間違っていますか？

何かをしていた方がいいですけど、例えばうちの場合は子どもの姿を見ながら来週何かをしようという時は子どもを見ながらしています。保育日誌も当然その間にしてしまうが子どもを見てやりながらすることを主にしないと、子どもから目を離してしまうので子供がいつ読んだか分かるようにしておかないといけないので、子どもを見ながらそこで日誌やお便りを書くとか、子どもと関係ないことはそこではしないことがあります。ある見学者が来た時に1の先生にチーム保育は役割分担があるのですかと聞かれた、その先生は表を見せてリーダーには給食の時間になったら、給食の時間になりましたよ、サブがフォローするという説明をしていたら、リーダーが声をかける役割ですねと言ったら、その彼は僕がリーダーなんです。皆さんに質問を答えているので、給食だよと声をかけられない、それを他の先生が見てちゃんと自分の代わりにフォローしてくれているんですよ、なのであの先生が声をかけたでしょ？私が声をかけられて答えているので、リーダーだからやるのではなくてリーダーがこっちをやっているなら、次の人がフォローすると言っていました、それがチーム保育ですと。保育室の中で概ね見る場所は決まっています。この先生はこっちを見ているとかしています。動画で職員会で皆さんに見せていました。そばにいた先生が保護者のところへ行ったら、他の先生がカバーするように何となく動いて穴をあけないんです。それは何も言わなくてもですよ。それから子どもたちの遊びが停滞しているグループがあって気づいて先生がそこに入ったら、その先生が見ていた数人の子たちのところへサーッと近づいていた。内は割と阿吽の呼吸で動いているので、昨日来た方は誰が先生か見学者が分からないので、今ラインで明日の場合はうちの職員はお揃いのTsyatuwo起用と出しています。見学者がどう先生たちが動いているか見て欲しいので明日は同じ園のTシャツを着てくるように出したと思います。そうするとどこら辺にどう経っているか、先生がトイレ行くなりそれをカバーするように動くネス。散歩のときもすごいですね。散歩へ行く時、ガードレールが切れている。1列で行くと戦闘が切れ目が通り過ぎると2番目の先生が切れ目のところに立って、持ち場が過ぎると次の先生にパスと全部の先生が後退して切れ目に立つとか、道がカーブすると車が見えないので、2番目が廻り角に言ってここにいるよとアピールするとかお互いがお互いの動きを作っているのがチーム保育です。番号で動いていますがお互いがお互いのカバーをしあう。うちはノンコンタクトタイムはいらないねというのが職員室を出たら周りの先生がカバーしてくれる。お互いがいた害をカバーし合う。その時に聞かれたのがお便り帳役割を決めないでだれが書いているんですか？気づいた先生が書いています。抜けてませんかと聞かれうちの職員笑ってました。書き終わったら別のところに移すので誰が書いていないか分かるので気づいた先生が書いていますと言っていた。おむつも交換したらこっちに移します。変えていなければ気づいた別の先生が変えています。なかなか、うちの保育が難しいのは人の動きを感じられない人は難しいですね。ですから、逆に決めないですね。概ね決まっているが、明日見学に来る人はその辺りの動きを見てください。ありがとうございました。

本稿は、2023年7月11日に開催した「第57回保育環境セミナー」のQ&Aの内容をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)